

基 調 講 演

“コミュニティ活動における高齢者の地域づくり”

水 流 信 雄 氏

(薩摩川内市大馬越地区コミュニティ協議会会長)



皆さん、こんにちは。

大変お疲れのところ、あと一踏ん張りでございますのでお付き合い願いたいと思います。

ただいま紹介いただきました、入来町の大馬越地区コミュニティ協議会の会長の水流といいます。パソコン操作は久永主事でございます。よろしく申し上げます。

先ほど表彰の栄に浴された7団体の方、大変おめでとうございます。また、事例発表も非常に感銘を受けたところでございます。ありがとうございました。

それでは、私たちの活動を、第8番目の事例活動とこんな感じがしないでもないんですが、少し前置きをしながら紹介をさせていただきたいというふうに思っております。

薩摩川内市は、平成16年10月12日に、1市4町4村で合併をいたしまして、平成17年4月に48小学校区、48コミュニティ協議会というのを設立いたしました。これは、「地域のことは地域の人たちの手で」ということで設立をされたわけでございます。その地区地区に合った地区振興計画というのを作成して、それによって、行事とか事業展開をしているところでございます。

最近、よく話をするわけでございますけれども、3つほどちょっと話をさせていただきたいと思うんですが、1つは、朝6時25分からテレビ体操がございます。これを皆さんなさったら、若いお姉さんたちと（一緒）ですと非常に元気が出るのではないのかなというふうに思っております。

2つ目ですが、私も最近、67歳になりますけれども、忘れ物が多くて、「自分の物には名前を書きましょう」と、こんな話もしております。

もう1つですが、先ほど話がございましたとおり、来年は国民文化祭が鹿児島県であります。その川柳の会場が入来町でございます。「皆さん、川柳をひねりましょう」と、こんな話をしているところでございます。普通の短歌と違って、なかなかひねりが難しいと、こんなことでございます。

それから、私たち大馬越地区コミュニティ協議会としましては、最初、何もないところから何かを始めようということで、もう合併して既に10年を経過いたしました。これから10年、さらに高齢化が進む中で、私どもの地区では今年度を福祉元年と位置づけをしまして、高齢者を、地域総ぐるみで、無理・無駄のない見守りネットワークづくりをしようということで始めておりますし、サロンの立ち上げにも支援をいたしております。

それからもう1つ、最近、赤ちゃんの声をなかなか聞かないということで、赤ちゃんの誕生祝い事業というのもし始めました。後でも出てくるというふうに思っておりますが、先ほど

来、事例発表がたくさんございますとおり、本当に地域づくりは高齢者が第一線でございます。地域に帰ってみますと、60代は若者、70代が第一線で頑張っているところな現状ですので、その現状の活動ぶりをパワーポイントで紹介させていただきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いいたします。

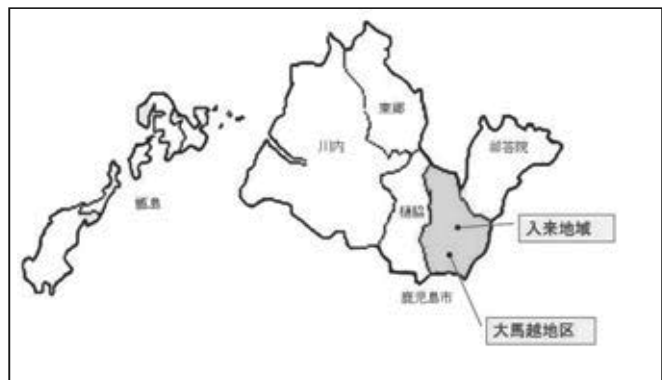
それでは、早速入りたいと思います。

大馬越は、平成17年から、「しそっぷ物語」ということですが、シソジュースを開発いたしました。このメンバーで作っておりますが、高齢の方は75歳、74歳、70歳とこういった人たちで、平均60歳以上の方々ばかりです。シソジュースを作るいろんな工程がございますけれども、お湯



ばかり使って、非常に暑い中でちょうど7月いっぱい作っております。

大馬越の位置でございますが、薩摩川内市の中の南側、鹿児島市に隣接をしている所でございます。入来峠を越えた所です。



ご覧のとおり、山ばかりでして、コミュニティセンターというのがちょうど今の所にあるわけでございます。

何も無い大馬越にある無限の宝ということで、鹿児島市から30分で来られると。それから、ハウスきんかん、「入来きんかん」の銘で出ておりますが、今、香港とかシンガポールにも持って行ってあります。それから、棚田100選の内之尾の棚田というのがございます。それから、



地元の食材を使った特産品づくりがいろいろ盛んになされているところです。

それから、人情あふれる地域づくりということで、何といたしまして、女性の活動が欠かせないわけでした、積極的に活動してもらっているところですし、ボランティアでも、いろんな格好でもらっております。

大馬越地区コミュニティ協議会には5つの部会があって、その部会を中心に、それぞれ行事、年間の事業を展開しているところです。いろいろございますけれども、前向きに捉えて何でもやっているという地域です。

入来町ですが、5つのコミュニティ協議会がありますけれども、大馬越地区コミュニティ協議会は面積的には大変広うございまして、入来峠を越えた山ばかりの地域です。

大馬越自治会は11の自治会がありますけれども、そのうち薩摩川内市では、65歳以上が50%に達している集落、自治会を、「ゴールド集落」というふうに呼んでおりますが、私たちの11の中に5つこういった集落がございまして、高齢化も非常に進んでいるところでございます。



地区の概要ですが、人口が650人、世帯が330世帯、高齢化率が43%です。入来町の人口も、昭和35～36年には1万2,000人だったんですが、今、5,000人でございます、こういった、非常に人口減少も激しい所です。

地区の見所ですが、入来峠の下に「きんかんの里」という物産館があり、そこに三連水車がございます。長野下という所に滝があったり、彼岸花ロードもございます。

それから、内之尾の棚田がありますが、ここは毎年いろんな行事がなされている所でございます。

今、郷土芸能の継承が非常に難しいんですが、大馬越地区には太鼓踊りが2つ、棒踊りとか獅子舞とか、このようなものが伝承されております。

自治会活動の中でいろんな活動があるんですが、一こまを申し上げますと、長野下という所で敬老運動会が毎年ございますが、運動会の中で、皿から皿に、つるつるしたお箸で大豆を20個移すと、こんな行事がありますし、各コーナーに人が待っていらっちゃって、なんこをして、勝たんにゃ回れんと、こんな面白い行事もございます。

昼からは子どもたちが、じいちゃん、ばあちゃんに作文を読んだり、肩をもんだり、うそ電話についてお巡りさんからの話



があったりして楽しんでもらっている、という自治会でございます。大馬越自治会では、高齢者の方に来ていただいて余興を楽しんでいただくと、こんな行事も毎年されているところでございます。

農家戸数等でございますが、179戸で、担い手農家、認定農家、それぞれございまして、農用地が約100町、圃場整備が90%されておりまして、主にお茶、きんかん、ゴーヤ、水稲とこういった農産物の作付がされております。

経過でございますが、先ほど申し上げましたとおり、薩摩川内市では小学校区を単位として（コミュニティ協議会を）48作っておりますけれども、何十戸、何十人から、5,000戸、1万人と、こんな大小の開きがあるコミュニティ協議会でございます。

協議会のイメージとしては、行政とはパートナーという関係で、各地区コミュニティ協議会ともそれぞれ情報交換・連携をとっております、（旧入来町内に）協議会は5つあるんですけれども、入来は一つということではいろんな取り組みをしております。

今まで、いろんな団体がそれぞれ縦の流れであったわけですが、コミュニティ協議会というのは、いろんな団体をリンクして横断的な組織に作り替えたということで、それぞれの団体の代表とか地区代表が集まってできた協議会でございます。

地区振興計画という、その地区に合った計画を立てるわけですが、大馬越では、「地区住民が協力し、歴史、自然、文化を守り、未来を拓く活気ある郷をめざす大馬越」として、今、第3期の振興計画を作って事業推進を図っているところです。

その中で、大きな項目が4つございます。安心して暮らせる郷づくり、子どもとお年寄りを大事にする郷、ふれあいを通じて健康で長寿の里を築く、自然を大事にしながら環境整備等を図って豊かな地域を築く、としてございますけれども、何せ公的機関というのは余り無いところでございます。

平成16年10月合併し、平成17年4月からコミュニティ協議会を立ち上げて、その中で市が20万円という補助金を用意されて、この20万円でそれぞれ何かをしてくださいということでございまして、大馬越ではいろんなアンケートやら話し合いの中で、「昔、ばあちゃんたちがシソジュースを作っておったよな、これが商品化できないの」という話が初めて出まして、地域のシソの葉を利用し、休耕田を借りて植えたりして、商品化にこぎつけております。休耕田の整地から移植、マルチ張り、こういったことの作業をそれぞれみんなでやっております。

工程でございますが、朝、刈り取ってきたシソを、鹿児島弁で、むしるといいますけれ

ども、この中には80代の高齢者も4～5名いらっしゃいますし、うった祝、すんだ祝というのも中に入れて楽しみながらやっておりますが、シソを手洗いで洗浄し、瓶も洗浄しながら、100度の熱で30分沸騰させ、それから加工はボイラーがありますのでボイラーで、一定の水、一定のシソ、グラニュー糖、クエン酸を加えてシソジュースを作り、栓も打栓機でしております。



「しそっふ物語」ということで現在、銘をつけておりますが、今、商標登録中でございます。シソは昔からいろんな効果があるというふうに言われておりますし、インターネットで検索すればシソの効果がすぐ出ますけれども、非常に健康志向の飲み物として、今、人気が高まっているところでございます。

鹿児島は、黒豚、黒牛といろいろあるんですが、大馬越は赤もあるんだよということで、赤シソからは赤、大葉（青シソ）からは青、2種類のシソジュースを作っております。非常に爽やかということで夏の欠かせない飲み物ですが、冬にもいけますよということで後ほど話をさせていただきますけれども、市の特産品協会長表彰、県知事表彰、農政局長表彰等をいただいているところでございます。

昨年、おれんじ鉄道の食堂車でたくさんシソジュースを使っていたきました。

反省会でございますが、某ホテルの夜の会場でそれぞれ携わった人たちを交えて反省会しております。

3つ営業許可を持っております。シソジュース、豆腐、おかべですけれども、お味噌ですね。おかべも作っておりますし、種まき状況、シカよけ、収穫には小学生も手伝いに来られます。その一こまでございます。

コミュニティ協議会に加工室が併設をされているものですから、いろいろ取り組みがしやすいという利点がございまして、おかべも作っております。地域の大豆に限定して使っているんですが、去年、一昨年大豆の収穫が悪くて、今、イベントのときだけ豆腐を作ってお